





実は、輪尺は樹高も測れるのです。



白魚のような指は2cmより細い？

記入。測定が終わった木にはチヨークで印を。  
引き続き、樹高の測定。木の根元から頂点が見える木を選んで測定。先端が分らないときは下で木を蹴って先端を揺らして確認

**12時** 昼食。ミス水鋼機さんが前回注文したナタ、ノコを持ってくる

**1時** 再び各班、樹高測定。直径の大、中、小を基準として、全員が樹高測定を体験する

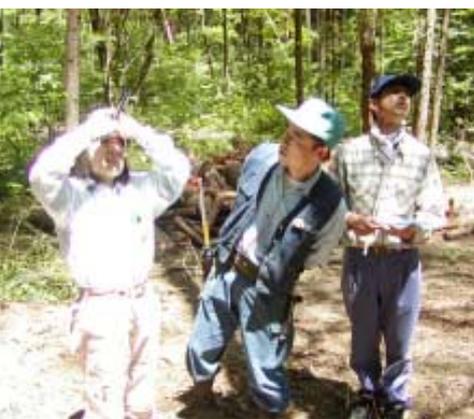
ワイゼ以外の樹高測定法を試みる。巻き尺で直角二等辺三角形を作り、45度のところに目を持ってきて、斜辺の延長線上に木の頂点が来るようにする。あとで、測点から根元までの距離を測れば樹高がでる。後で、ワイゼで確認するがほぼ同じ値とな



探鳥会？ UFO観察？



木は人と違って直径で測る



もろに逆光。ナントかして！！



一昨年の切り株で林齢を知る

**1時50分** 各班小屋に戻り、測定したデータをもとに樹高曲線を書く。その樹高曲線をもとに林分調査表の作成。単木材積は立木幹材積表から読みとる。各直径の立木材積を計算し、1haあたりの材積を求める

**3時** 各班の計算結果を集計。これをもとに次回、密度、林分形状比は宿題。現況の説明と施業診断は次

**今日のポイント**  
今回各班の調べたデータを載せてみます。二班はアカマ

川、中村、平林、坂野、此村、早藤本さん  
スタッフノ大野、川島、後藤

参加者ノ井上さん、江尻さん、尾形さん、長部さん、梶原さん、北澤さん、鬼頭さん、木村さん、黒岩さん、小泉さん、小山さん、斎藤(章)さん、佐藤さん、下平さん、館野さん、坪内さん、成田さん、長谷川さん、埴さん、山田さん、和辻さん、佐藤(誠)さん、長坂さん、久部さん、山浦さん、池田さん

**3時20分** 終了。解散

2002年5月25日 測樹 各班データー

班	材種	平均直径 (cm)	平均樹高 (m)	上層樹高 (m)	本 /ha	材積	樹齢
1	ヒノキ	20.0	17.0	18.0	1050	275	45年
2	赤松	23.2	17.4	22.7	1200	544	58年
3	赤松	27.2	22.7	24.1	650	431	37年
4	ヒノキ	15.4	12.4	14.0	1250	155	35年
5	ヒノキ	16.0	13.7	15.3	1775	271	37年

ツを中心にヒノキ、サワラの混交林です。時間のある方は復習と予習をかねてそれぞれの班の込み具合や林分形状比などを計算してみてください。

**次回以降の予定**

**第四回 施業診断、林木評価**

6月8日(土)

今回の続きです。地位指数、密度、林分形状比から施業の方針が決まります。そしてその方針どおりに施業をした場合材はどのくらいの量出るのが、市場でその材はいくらでさばれるのか。そのあたりまでやってみたいと思います。

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。お弁当、筆記用具、電卓、直径巻尺  
担当は鳥崎先生です

**第五回 伐木造材**

6月21日(金)

チェーンソーを使って実際に木を切り倒してみましよう。便利ではありますが、なかなか侮れない道具です。メンテナンスも

**第六回 下草刈り**

6月22日(土)

これはつらい。山仕事のきつさを体験してみてください。植林をした伊那市下殿島区有林を予定しています。地帯もやってみましよう。8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。お弁当、雨具。  
担当は保科先生です。二日続きになりますので遠くの方は宿の手配を。





「ラグビーと畑と山をつなぐもの」

井上 淳貴



今回、初めて参加させていた  
だきます。東京都羽村市出身  
の井上淳貴です。ラグビーと  
畑と山というテーマで少々。  
^ Rugby ^ 今、話題の  
サッカーやアメリカンフッ  
トボールと混同する方もい  
ると思いますが、昔、イギリ  
スの少年がサッカーの試合  
中、興奮して夢中になり、  
ボールを手に持って走って

しまったのがラグビーという  
競技の始まり。他のスポーツ  
の中でも最多の十五人対十五  
人という人数で得点を競い、  
球技というよりは格闘技的な  
要素も多く、マラソンと短距  
離走とレスリング・相撲が一  
つになった様なスポーツと  
言っても良いかもしれませ  
ん。危険なスポーツ故、各ブ  
レーヤーの自制心というか  
“倫理”が厳しく求められるこ  
とが多く、イギリスのパブ  
リックスクールなどで、人格  
形成や教育面を考え“学校の  
スポーツ”として行われてい  
ることが多い。この辺が“紳  
士のスポーツ”といわれる所  
以。ただし、これは本場イギ  
リスの話であって、私も含め  
多くの日本式ラグビー経験者  
は“紳士”というよりも、が  
さつな野蛮人と言った方が多  
数を占めると思う。ただこの  
競技の特性からか(非常に痛  
く、キツイ練習で理不尽な事  
が多い)友達の“連帯”とい  
うか不思議な仲間  
意識が芽生えるの  
である。この事は  
世界共通で、私も  
ラグビーのおかげ  
で豪州・韓国・  
ニュージーランド  
と様々な国の人々  
と交流を持つ事が  
できたが、この仲  
間意識だけは他の  
スポーツの仲間の

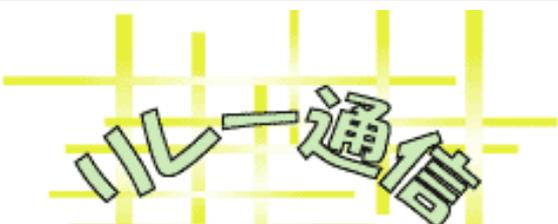
感覚とはちがう一種独特のも  
のがあると思う。  
高校生活から現在まで二十  
年間(現役・指導歴を含む)の  
ラグビーの経験で感じた事  
が、畑仕事や山仕事で感じる  
感覚と似ていると最近多々感  
じる事が多くなりました。  
^ 畑の事 ^ 実家が養豚や  
花づくりをしていた農家とい  
う事もあり、農業を特別な仕  
事とした考えもありません。九  
十八年の八ヶ岳の就農予備校  
に参加し、東京世田谷の等々  
力にある有機農家・大平博四  
氏(日本の有機農家では有名  
な方で、世田谷の自宅は二十  
数年の樹齢三百年を超える樺  
に囲まれ、その林?の中  
を近くの家から逃げて野生化  
した数羽のオウムとフクロウ  
が共生する不思議な空間)に  
お会いした事が、有機農業を  
始めるきっかけでした。  
水の重要性や化学肥料・除  
草剤等の農薬の害の話、畑の  
中のクモ・アブラムシ・てん  
とう虫やひきがえる達の天敵  
関係など、いろんな“循環の  
世界”を知ってからは、今年  
で就農三年目ですが、毎日が  
新鮮で一日として同じ日はな  
いという事に改めて感動する  
日々です。  
^ 山のこと ^ 自宅のある  
羽村市は、十五分も車で走れ  
ばあきる野・青梅・奥多摩と  
“東京の山”へ入る事が容易  
な場所で、畑で使う杭を知人

の林家にスギの間伐材をいた  
だいた事が山仕事に興味を持  
つきっかけでした。  
畑仕事もそうであったが、  
山の仕事を一番の理由は  
“山が好きだ”と言う事であ  
ろう。日本の林業の現状が悲  
惨で、林家の生活が大変であ  
るといった様な山の問題とい  
うのは、山仕事を始めてから  
知った事がほとんどだ。そん  
な山への感情を自分の感性に  
まかせて山仕事の奥深さに魅  
せられたのも、鳥崎先生の著  
書を読んで森林塾の受講を希  
望したのも、ほとんど直感と  
いうか、東京の山とはちがっ  
た環境で自分の経験を重ねた  
い、山に興味や関心のある人  
と話をしたい、などの軽い理  
由であったが、実際に塾の参  
加者が例年抽選であるなど、  
関心のある人達の熱の高さに  
は改めて驚いた。  
今回五月十日、特に感銘を  
受けた事なのだが、保科先生  
とのお話の中で、昨年の小学  
生の林業体験学習について、  
子供に聴診器を使って木の音  
を聞かせて木は生きていると  
いう事を教えたり、腐葉土と  
土のペットボトルを使っ  
ての保水力の実験の話、伐木した  
あとの切り株に榊を供える意  
味を教える等々、将来ラグ  
ビーと畑と山をつなぎ、子供  
に環境教育というか目に見え  
ない物への価値・重要性をど  
う教えていこうかを考えてい

た私にとって、目から鱗のお  
話でした。保科先生の自信に  
満ちた口調には、“そうそ  
う、俺もそう思ってたんだ”  
と心の中でつぶやきながら、  
やはり自分に似た考えを持っ  
て実践している人の生の言葉  
に触れ嬉しくなりました。あ  
りがとうございました。  
ラグビー・畑・山を通して  
「目に見えないものの偉大さ」  
というか「何か忘れられてい  
る物」を、保科先生や鳥崎先

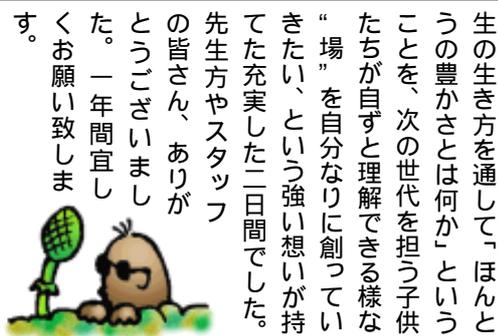
この詩はサトウハチロー作  
の、私が通っていた小学校の  
校歌でお気に入りの歌です。  
岐阜県岐阜市の南部に位置  
し、北に金華山、西には伊吹  
山、そして東には冬の晴れた  
日に遠くに御岳山が見えま  
す。校庭のすみには幅約四十  
メートル、高さ十メートルほ  
どの小山があり、子供達を見  
守るかのように、イチヨウの  
大木があつて、子供達の遊び  
場となっております。  
改めまして皆さん、こんに  
ちは。この年度通年コースに入  
塾しました自称、鉄の芸術家  
こと、長部(おさべ)と申しま  
す。長と部の間に谷が入って  
ないので、はせべとは言いま  
せんので、あしからず。  
入塾早々、早川さんよりリ  
レー通信なるメールを頂いた  
のですが、なにぶん口べたな  
もので、どうしよつかとも  
思ったのですが、先日の自己

生生き方を通して「ほん  
と豊かさとは何か」とい  
うことを、次の世代を担う子供  
たちが自ずと理解できる様な  
“場”を自分なりに創って  
きたい、という強い想いが持  
てた充実した二日間でした。  
先生方やスタッフ  
の皆さん、ありが  
とうございました。  
一年間宜し  
くお願い致しま  
す。



鉄の芸術家

長部 純司



紹介のやり直しと思い引き受けてました。そこで、何から書こうか考えた末に、まずは私の好きな歌から書き始めました。生まれも育ちも岐阜市内で長良川、木曾川、そして金華山とあるのですが、やはり子供時分の遊び場といえば家の周辺ということで、自然とはかけ離れた生活をしていました。けれど私には第二のふる里のようなものがあり、実はお袋の在所なんです。岐阜市と高山市の中間に白川町室山という、名前からして山の字がつくほどの山奥に、春はたけのこや山菜とり、夏はお弁当を作ってもらってみんなでずーっと山道を降りていって川遊びをし、そして冬は外でたいして遊びをするわけでもなく、掘りこたつに入って、トランプや花札等をして遊んでおりました。居間から玄関こしに外を見ると山の稜線が絵でも見るように見



え、玄関を出ると眼下には、段々畑ならぬ棚田が見え、家の両脇には牛、にわとり、柿の木に小さな竹やぶと、そして裏には小さな畑のその奥は針葉樹の森といったまさに絵に書いたような田舎です。なんせ、絵葉書にもなつたくらいですから。でも今は年に一、二回、日帰りでお墓参りに行く程度ですが、やはり行く日はワクワクします。

現在は数キロ程南にお馬さんが沢山走り回る、要するに競馬場なんです。そのすぐ近所で寝起きをして住宅用の足場の仕事をしています。でも私は自分のことを足場屋とは言わず、『鉄の芸術家』と自称しています。新築と補修とがあるのですが、鉄パイプと網状の板、そしてクランプ等で家の形に合わせて組み立てていきます。最近家の土台しかない状態で上棟する前に図面を見ながら、家がこう建

つだらうと思いがら足場を組み上げていきます。足場が出来上がった状態は、私が勝手に思っているのですが、まさに芸術品そのものです。そしてその芸術品に大工さ

ん達が乗って家を建てていくのです。

で、その芸術家がなぜ森林塾に入ったのかと申しますと、古民家生活術なる本に、「切って切って、切りまくらにや日本の山は駄目になる」の出だして日本の山を再生すると続くのですが、私は山が好きですから、そうか山仕事は難しくないのかと思いい山仕事に興味を持ったわけなんです。

私は自分自身の家を持つなら、「こじんまりとした土壁の平屋建てで、南向きの縁側といろりのある家で、のんびりといろりの火を見つめながら過ごしたい」という思いがあります。そして、仕事柄いろいろな家を見てみると、こんなのでいいのかなと思うようなことが多々あります。それは、木を切り倒して山を開き、道路を作って造成し、何年持つのか分からない、どれもこれも似たような新建材で出来た、快適をうりにした家が建ちならんでいるのを見ると本当にこれでもいいのかと思

います。今まで自分自身、木について何も知らなかった中で、木、家、そして林業のことを学び始めました。勢いに任せて林業家の元で働こうかとも思いましたが、現実的に今は無理かなと思いい、なら、今自分出来ることはと考えたら、ボランティアなり、なんなりして山仕事を覚えてい

こうと思いい、そして森林塾に通おうと決意しました。他に地元でも登録したので日が重なることもありませんが、この一年はKOA森林塾でいろいろな事を学んでいきたいと思いいいます。

先生方にスタッフの皆様、そして通年コースの皆さん、よろしく願います。

コラム

私はオートバイに乗っている。カブ号であります。いわば白の軽トラクックに似た力があり、どこに行つても溶け込む、知らない人でも挨拶をしてくれるという、もはや排気量では変えられない馬力を持つのであります。たとえ、農業仕事をしている人でも中断させてしまふ。

以前はもう少し大きいオフロードバイクに乗っていました。近所の山道をおやつを背負つてゆつくりと行くのが好きでした。林道は無数にあるように感じられました。実際に山仕事をするにはまだ足りないといわれますが、また今度来ようと思つて忘れてしまった枝道は数知れません。新しい道を見つけたら地図に書き足す。木母がいつぱいあつたらそれも書いておく。また、食べにくることができませんから。帰りが遅くなつた秋の日、ライトに照らされて美しく光っていた冬毛のきつ

ね。落石だ！まずい！と思つたら慌てて逃げていくさるの群れ。茶色い岩かと思つた。カブを曲がったら、あ？おばあさんだ！と思つたらもしかだった。腰が曲がったおばあさんかと思つた。なんだ、かもしかか、びつくりした。しかしこのとき初めてかもしかを見たのでした。それ以上にこんな人里はなれた林道に腰が曲がったおばあさんがいたら怖い。

作業のための林道はまだ足りないとい聞いたとき、その管理は大変だろうと思いいました。現在作業中の林道はゲートがあつて入れないことが多いです。自由に入れる林道では崩落していたり流水でえぐれている、木が生えていることも多くありました。無理やり道をつけたようなところはやはり寿命も短いようです。この辺は林道設計の回で勉強できるのかなあと思いいいます。

いま、カブ号で林道に行くとき道端からではありませんが山をよく観察しています。山主が違うのでしょうか、はつきりとして入られされている一角があつたりします。実際に山仕事をしようと思つし、だから勉強しようと思いいいます。

昔、オフロードバイクでピクニックしていたころはすごく表面的なところしか見ていなかったのです。今よりもっといい山に。人が入つた山だ

からいい山じゃない、ではない。原生林と人が入つた山では基本的に違つたということすらわからなかつた。これは内容の濃い一年になりそうであります。みなさま、どうか御安全に。

「カブ夫」



おわりに

暑くもなく寒くもない、実に気持ちの良い、晴天の伊那谷の春を満喫していただきながらの測樹ができて幸でした。次回は施業診断、林木評価をしていよいよ伐木造材、下草刈りへと塾も佳境に入つてきます。

名簿訂正：通年の宮沢さん電話番号が×2087 2587です。お手数ですがお配りした名簿の訂正をお願いします。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。  
TEL 0265-70-7065  
FAX 0265-70-7994  
E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp  
sh-sakano@koanet.co.jp  
mi-tsuboki@koanet.co.jp  
携帯:0902-53-26375 (開催日)  
H.P. http://www.koanet.co.jp

